

保健福祉センター「夢の森」保養施設にかかる 今後の方向性について

熱塩加納保健福祉センター「夢の森」保養施設につきましては、令和7年4月8日の源泉ポンプの緊急停止に伴い、翌9日から臨時休館とし、設置業者や第三者専門機関による根本的な調査を行ってまいりました。

その結果、当該施設の温泉運営継続には将来にわたり多額の予算を投じる必要があることや、予算を投じて安定した温泉運営が維持できるかは不透明であることが明らかとなりました。

それらを踏まえ、庁内関係課や指定管理者である社会福祉協議会との協議の結果、市内には民間を含め類似施設が複数あり、その機能を代替できることもあり、総合的な検討の結果から、保養施設の入浴機能は終了すべきとの見解に至りました。

なお、回数券の未利用分については、後日、払い戻しを行ってまいります。(令和8年5月予定)

つきましては、引き続き地域のみなさまの集いの場となるよう、施設の活用方法について検討してまいります。

1 保健福祉センター夢の森保養施設に関する調査結果について

設置業者の「日本地下水開発株式会社」へは、揚湯ポンプの引き揚げ及び故障原因の特定並びに対応策について、また、第三者専門機関の「公益財団法人中央温泉研究所」へは、温泉の温度や成分が揚湯設備に及ぼす影響等の調査・検討及び対応策の提案について、業務委託を行いました。それぞれの調査結果については以下のとおりです。

(1) 「日本地下水開発株式会社」からの調査結果

① 揚湯ポンプの故障原因

ポンプ部に異常はなく、モーター一部の過熱運転により故障に至ったもの。モーター内部のメカニカルシール内ゴム部品の熱による劣化により封入液が流出し、モーターの冷却不足が発生したものと推測。そのため、モーター稼働時に過度な力が加わり、モーター内部が異常な高温状態となり、円滑な運転がされず稼働停止したと考えられる。

② 対応策

8～10 か月程度の間隔での揚湯ポンプの定期更新、又は源泉の温度を下げるため井戸への加水を検討すること。ただし、どれが最善策か判断しきれないのが現状であり、現在の条件のままポンプを設置しても短期間で故障が発生するものと推測される。

(2) 「公益財団法人中央温泉研究所」からの調査結果

① 温泉の温度や成分が揚湯設備に与える影響

高温により、水中ポンプのケーブル類や揚湯管、ケーシング管の腐食や変形が発生しやすくなることが考えられる。また、ポンプ周辺の流動が不十分となり、モーターの冷却が充分に行われず、故障の原因になることも考えられる。

さらに、温泉成分が沈殿物としてポンプや揚湯管、ケーシング管に付着することでの腐食や変形、沈殿物や錆片が温泉とともにポンプに吸い込まれることでの部品への付着や破損、モーターへの負荷発生が起こることも考えられる。

② 対応策

半年に一回程度の揚湯ポンプの更新や源泉井戸内への低温低濃度水注入の検討、既存源泉より浅い深度の温泉開発を検討すること。なお、これらはいくまでも想定される方針であり、必ずしも問題解決が保障されるものではない。

2 保養施設（温泉機能）に要したこれまでの経費

「夢の森」保養施設は平成6年8月の供用開始以降、何度か揚湯設備が緊急停止しており、平成22年以降は15年間で14回もの緊急停止により修繕や揚湯機交換等の対応を行ってきました。これまでに要した費用は以下のとおりです。

項目	費用
源泉井戸開発費用	3億3,685万円
揚湯設備定期更新・修繕費用	2億2,944万円
その他温泉設備整備修繕等費用※H22年度以降	1億6,639万円
合計	7億3,268万円